



進路希望予備調査を終えて…

5月下旬に進路希望調査（事前調査）を取りました。ありがとうございました。保護者と進路の話をする事ができたでしょうか？今回の進路希望調査は、自分の目指す方向性を考え、保護者と進路について考えるきっかけを作る目的で行いました。アンケートを行う中で、質問事項がありましたので、出来る限りお答えしたいと思います。ちなみに…進路希望のほぼ100%が高等学校進学でした。

（1）高校の情報が知りたいです。どこの高校の見学に行けばよいか分かりません。

学校の情報を取り入れたい場合は、各学校のHPを見ることが一番です。中学校の方にも色々な学校から学校見学の案内やポスターが来ています。3年活動室の前に掲示してあるので、興味のある学校があれば見てください。学校見学は、8月～10月が見学会のピークになります。この時期は毎週土日に説明会が開かれています。また見学会だけではなく、8月には授業体験や部活動体験もあります。学校によっては、この授業体験や部活動体験に来た生徒を記録しておいたりもしていますので、興味のある学校には説明会や授業体験に積極的に参加してください。

ある都立の人気校の校長先生がこのようなことをおっしゃっていました。

「下駄箱の上、生徒用トイレ、生徒・先生の挨拶の様子、この3つを見れば、その学校の善し悪しがわかる」と。その心は次のようなものでした。

○下駄箱の上は、放っておくとほこりもたまり、生徒が私物を重ね置きしがち。整理整頓や清掃がきちんとできているかがわかる。

○生徒用トイレが清潔に使われているかどうかを見ることで、その学校の生徒の「人としてのレベルの高さ」がわかる。

○生徒・先生同士の挨拶はもちろん、来校者（見学に来た外部の人）に対して生徒・先生がしっかりと挨拶できている学校は、コミュニケーションがきちんと取れていて指導がいきわたっている。

もし校内の様子を見ることができれば、以上も見ておきたいポイントです。

（2）受験システムについて詳しく知りたいです。

①公立高校（千葉県）令和7年2月4日(火)～2月6日(木)出願、12日(水)・13日(木)志願変更
2月18日(火)・19日(水)試験、3月4日(火)発表

5教科テストの点数+調査書（成績・検定や部活動成績、学校のリーダーなどを各学校の基準で加点）+学校設定調査（各校毎に異なります。多くは面接や小論文など、スポーツ科や部活動を高校でも続けたい場合は実技試験）があります。

②公立高校（茨城県）令和7年2月6日(木)・7日(金)・10日(月)出願、17日(月)・18日(火)
志願変更、27日(木)・28日(金)試験、3月12日(水)発表

5教科テストの点数+調査書(成績・検定や部活動成績、学校のリーダーなどを各学校の基準で加点)+高校設定検査(各校毎に異なります。多くは面接や小論文など、スポーツ科や部活動を高校でも続けたい場合は、実技試験)があります。一部の学校で、特色化選抜(文化・芸術・体育、奉仕活動および生徒会活動などの分野で優れた資質・実績がある人)があります。特色化が不合格の場合は、共通選抜の選考に掛けられ、最終的な合否判定となります。千葉より発表が遅いため、友達の進学先が決まった雰囲気の中で発表を待つので、気持ちの部分も考えて選択しましょう。また、千葉県の受検者は、隣接協定のきまりにより、定員の3割までしか合格できません。

③私立高校 (1月位から各都道府県である程度日程は固まっています。入試日の重なりに注意)

多くは、高校の基準クリア(成績)+学校長の推薦決定後、各高校に相談の上(千葉・東京は先生方でいきます。)推薦入試の受験の可否が決まります。不可の場合は、一般入試(後期入試と呼ぶ学校もあります。)で受験します。推薦受験の可否は、あくまで、高校の入試担当の判断になります。推薦制度がない学校(例:専修大学松戸高等学校など)もあります。成績の基準は各学校のHPや書店にある高校受験案内(学校にも用意してあります)にも載っていることがありますので確認してください。他は面談でお話します。また、クラブチーム所属で、高校側とチームの監督が話をしている場合があります。監督から直接中学校に受験に関する連絡があることはほぼありませんので、学校側がその情報を知らないことがあります。また、監督と高校側の認識の相違で受験できないなどのトラブルがあります。クラブの監督・高校側と保護者で必ず確認をしてください。(通常、高校側の先生が来校し、保護者・本人・担任(場合によっては顧問も)と面談をする。)また、受験方法や受験日なども確認の上、随時担任の先生と話をし、連絡を密にしておいてください。

(4) 推薦の条件、高校側の基準は、どのようになっていますか?

私立高校で使う制度になります。千葉県及び隣接県公立高校に推薦制度はありません。

本人の推薦受験申し出→①学校からの推薦 ②高校側の基準→入試相談→推薦受験の可否
学校での活動(生徒会・部活動・リーダーなど全て)をもとに先生方と校長先生で話し合い、決定されるものです。校長推薦・学校推薦と言ったりします。人物評価としての側面が多いので、犯罪行為や学校生活に支障をきたす行為、授業の妨害など、学校として評価できなければ推薦はできません。高校側の基準は、公開している学校と非公開の学校があります。大きな内容(5教科の成績数値基準)などは公開されていることが多いので、HP、入試要項の取り寄せで確認してください。高校側の基準としては、3年次の1学期または2学期の5教科や9教科の成績が基準となります。数値が足りない場合に1~2点程度は後述の内容でプラスになることもあります。欠席(皆勤は+1になることも。逆に3年間の欠席が多いと、推薦不可のこともあります。)、検定(基本的に英検・漢検・数検3級以上)、部活動の成績(県大会や入賞など)、生徒会やリーダー、資格やボランティア活動などです。

(5) 就職に力を入れている学校、専門性のある高校はどんなところがありますか?

県内の専門学科のある公立高校は、どの学区でも受験をすることが可能です。第3学区の専門学科がある公立高校は、流山(園芸、情報処理)、流山おおたかの森(国際コミュニケーション)、清水(食品科学、工業系くくり)、県立柏(理数)、柏の葉(情報理数)、市立柏(スポーツ科学)です。例として、流山高校の情報処理科では、資格取得に力を入れており、毎年、日商簿記や全商ビジネス検定の上級合格者を数多く輩出し、就職率も高い数値を出しています。また、普通科の高校の中には、2年次からコース分けがあり、例えば我孫子東高校では福祉やビジネスコースがあります。授業カリキュラムも特色あるカリキュラムが組まれています。ぜひ、高校見学や体験入学に参加し、理解を広げてみてください。